

## 東吾野地区の結びつき

尾崎 泰弘

東吾野地区は、明治 22(1889)年に、江戸時代以来独立した村であった白子・平戸・虎秀・井上・長沢の 5 つが合併して誕生した近代地方自治体の東吾野村にあたります。東吾野村は昭和 31(1956)年 9 月に飯能市に合併しなくなりました。



絵葉書「東吾野村役場並産業組合事務所」

この 5 つの旧村で新たな村を作ることについては、高麗郡長より村名・区域・役場の位置などについて諮問があり、それに対し村議員総代人、重立たちは「異議無之」と申し立てています。他の村ではそれに異議を唱える場合(例えば岩淵村のように南高麗村ではなく、加治村への加入を希望するなど)もありましたが、東吾野はそのようなこともなくすんなり決まったようです。

地域から特に異論が出なかった理由として、この 5 ケ村が寛保 2(1742)年(寛保 3 年とも言われます)以来、明治 5(1872)

年までの 130 年間、一貫して上総国久留里藩領であったことが考えられます。武蔵国の久留里藩領を管轄していたのは、現在の深谷市にあった岡役所ですが、そこから来る様々な触への対応や同藩役人とのやりとりは、この隣接する 5 つの村が情報を共有し対処していたと推察されます。

しかし、江戸時代を通じてこの 5 ケ村がセットだったわけではありません。江戸時代前期の幕府領は、八王子や森下(現在の青梅市)、中山などに置かれた陣屋が支配していましたが、「高麗領」の村々を管轄していたのは、日高市梅原・栗坪の境にあったとされる高麗陣屋でした。このうち白子を除く四ヶ村は高麗領下我野郷でしたが、白子だけは高麗領高麗郷に属し、横手や台・梅原・栗坪・清流・新堀といった高麗川中流域の村々と一緒でした。また、寛文 8(1668)年の検地帳では、下我野村は入間郡と記載される一方、白子村は高麗郡となっています。正保年間(1644~1648)もしくは慶安 2(1850)年頃の作成といわれる『武蔵田園簿』では下我野村は高麗郡となっていますが、享保 2(1717)年の写である年貢賦課の基となる検地帳に「入間郡」と書かれていることは軽視できません。なお文政 12(1829)年「御支配並代々名主銘扣」(『東吾野郷土誌』85p)によれば、これら 4 ケ村が入間郡から高麗郡に編入されたのは元禄 5(1692)年とされています。

### 【参考文献】

編集責任者 石田 弥重郎『東吾野郷土誌』東吾野郷土研究会 昭和 45(1970)年 8 月 25 日

監修 竹内 理三・豊田 武・児玉 幸多・小西 四郎、校訂 関東近世史研究会 北島 正元 日本史料選書 15 巻『武蔵田園簿』近藤出版社 昭和 52(1977)9 月 30 日